

都道府県名	徳 島 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	浦 庄 小 学 校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	26	27	31	37	36	39	2	198	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」をはぐくむための基礎・基本の定着を目指して  
 - よくわかる 楽しくできる 指導方法のあり方 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～5年生・算数  
 系統性の強い算数科の授業においては、他教科と比べて理解度や習熟度において個人差が出やすく、その差は学年が進むにつれて拡大していくことが多いため。
- ・ 6年生・国語・算数  
 6年生はまとめの学年である。教科担任制で少人数指導の実施により、国語科では読む、書く等の力をつけるとともに、個人差の出やすい算数科において基礎基本の定着を図る。

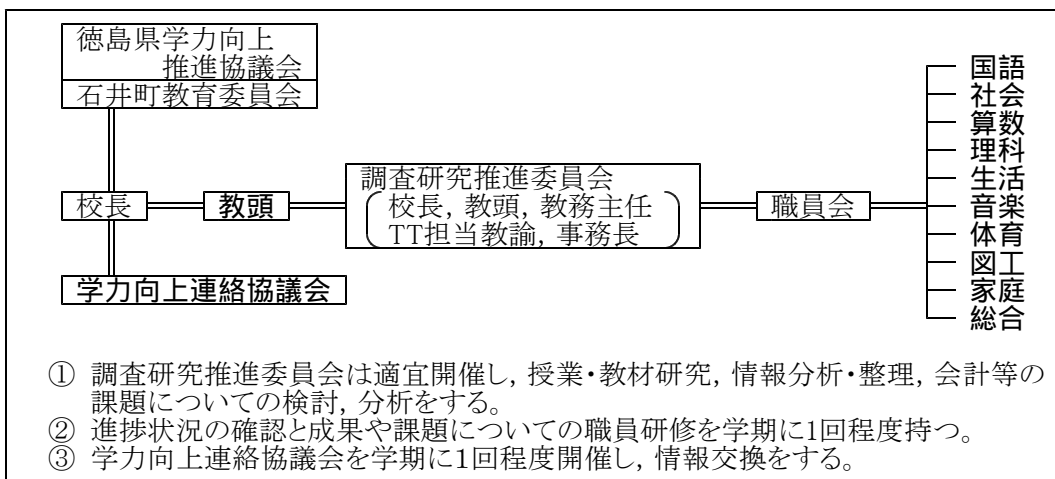
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ          「生きる力」をはぐくむための基礎・基本の定着を目指して          - よくわかる 楽しくできる 指導方法のあり方 -</p> <p>研究の見通し          系統性の強い算数科の授業においては、他教科と比べて理解度や習熟度において個人差が出やすく、その差は学年が進むにつれて拡大していくことが多い。そこで、1～5年の算数科の授業で T.T.を実施し、理解度や習熟度などの個人差に応じた指導を取り入れ、6年は算数科と国語科で少人数指導を実施する。          そのために標準学力検査を実施し、単元終了後のテスト結果と合わせて T.T.担当教員が集中管理し、学級担任と協力して児童の理解度や習熟度の把握に努め、指導方法の改善、教材開発、評価に生かす。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p><b>6年</b>          学級を A, B の二つの等質グループに分割し、A グループを専科教員が算数科の指導しているときに B グループを学級担任が国語科の指導をし、次の時間には A, B グループを入れ替えて指導する。</p> <p><b>1～5年</b>          TT 指導によりきめ細かな指導を行う。          TT で指導をする場合、最も多くの時間を必要とする「児童の学習状況の把握」を効率的に行うために、授業中の小テストや単元末のテストを少人数指導担当教員のもとに集め、コンピュータ（成績処理ソフト）で観点別に処理する。これにより児童の学力の推移を把握することができ、全教職員の共通理解につながる。</p> <p><b>他校との連携</b>          各学校との連携を密にして、進行状況や現状について報告し合うことにより、重点目標達成のための一助とする。          （連携学校）石井町高原小学校          石井町高浦中学校          （連携学校選定の理由）</p>
--------	--

小中の連携（生徒理解のために）は重要である。他校との情報交換により、自校の課題が見え、より効果的な指導につながる。

平成16年度	<p>テーマ 「生きる力」をはぐくむための基礎・基本の定着を目指して - よくわかる 楽しくできる 指導方法のあり方 -</p> <p>研究の見通し 2年目を迎える。初年度の成果や課題を検討しながら、子どもの実態に応じた研究を進めていく。 研究の内容・方法</p> <p><b>6年</b> 学級を A, B の二つの等質グループに分割し, A グループを専科教員が算数科の指導しているときに B グループを学級担任が国語科の指導をし, 次の時間には A, B グループを入れ替えて指導する。</p> <p><b>1～5年</b> TT 指導によりきめ細かな指導を行う。 TT で指導をする場合, 最も多くの時間を必要とする「児童の学習状況の把握」を効率的に行うために, 授業中の小テストや単元末のテストを少人数指導担当教員のもとに集め, コンピュータ(成績処理ソフト)で観点別に処理する。これにより児童の学力の推移を把握することができ, 全教職員の共通理解につながる。</p> <p><b>他校との連携</b> 各学校との連携を密にして, 進行状況や現状について報告し合うことにより, 重点目標達成のための一助とする。 (連携学校) 石井町高原小学校 石井町高浦中学校 (連携学校選定の理由) 小中の連携(生徒理解のために)は重要である。他校との情報交換により, 自校の課題が見え, より効果的な指導につながる。</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・学力検査結果による検証は, 平成15年4月実施分と平成16年1月実施分を比較して検討する予定。今回はアンケート結果の考察による効果の検証のみ。  
アンケート結果は別添
- TT指導と少人数指導  
アンケートの結果から, 昨年度の TT で算数科の授業をすることについても児童からほぼ支持されていた(92.3%)が, 本年度の少人数学習の方がより高い支持を得ている(97.4%)と言える。  
昨年度のアンケートで「2人で教える(TT)のがよい」と回答した児童と本年度のアンケートで「少人数学習がよい」と回答した児童の理由を比較す

ると、

- ア 「分かりやすい」が12名から17名に増えている。さらに「勉強が少しずつわかるようになってきた」という記述も1名だけながら見られた。
- イ 「楽しい」「おもしろい」に類する記述が2名から4名に増えている。さらに「間違えても気楽」という記述も1名だけながら見られた。

これらのことから、

- ア 学習内容の理解については、TT指導は高い効果があるが、本校の実施している少人数指導はさらに高い効果を示す。
- イ 学級の間人間関係に悪影響を及ぼすことなく学習意欲を高めることができている。

と思われる。

「質問しやすい」のように個別指導の充実に該当する回答は22名から16名に減少しているが、「分かりやすい」のように理解促進に該当する回答が12名から18名に増えていることから、少人数指導によって理解が促進されつつあると考えている。

これらのことから、本校が目指している「よくわかる 楽しくできる 指導方法のあり方」に関して、担任1人による指導よりは、TT指導や少人数指導の方がよりよき成果につながっていることがわかる。

## 2. 今後の課題

少人数指導における、習熟度別や課題別などの集団編成による指導方法の工夫  
 少人数指導の適切な導入時期の検討  
 「楽しくできる」指導方法のあり方  
 TT指導におけるT<sub>1</sub>T<sub>2</sub>の役割、かかわり方など指導方法の工夫  
 きめ細かな指導に生かせる評価規準・判断基準表の改善

## 学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査の実施

- ・ 調査の目的  
児童の学力の推移を継続的に把握し、実践の効果の検証と一人一人の児童の指導に役立てる。
- ・ 実施内容  
全学年の国語、算数
- ・ 実施時期  
平成15年度は4月と1月に、平成16年度以降は毎年1月に実施する予定。

単元終了後のテストや小テストの集中管理  
 単元終了後のテストや小テストの結果をT.T.担当教員が集中管理し、標準学力検査の結果や学期ごとの成績と比較検討し、学級担任と協力して児童の理解度や習熟度の把握に努め、指導方法の改善、教材開発、評価に生かす。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度は高原小学校が、平成16年度は高浦中学校が研究発表会を実施する予定である。本校は研究協力校として、全職員参加のもと両校の研究発表会において研究の成果を発表し、参加者とともに研究協議する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】             15年度からの新規校             14年度からの継続校
- 【学校規模】                     6学級以下                     7～12学級  
                                   13～18学級                     19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】                    少人数指導                    T.Tによる指導  
                                  一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】                     国語                     社会                    算数                     理科  
                                   生活                     音楽                     図画工作                 家庭  
                                   体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】             有                    無

# 1 効果の検証（児童のアンケート結果と考察《TT指導と少人数指導》）

## (1) 結果

H14.9.12実施 TT指導・6年（無記名） （回答数 39/39）		H15.9.12実施 少人数指導・6年（無記名） （回答数 39/39）	
<b>設問1</b> 今年は算数の勉強のとき、2人の先生で教えていますね。先生が2人で教えることについてあなたはどのように思いますか。 理由も書いてください。		<b>設問1</b> 今年は国語と算数の勉強のとき、クラスを半分に分けて2人の先生で教えていますね。クラスを半分に分けて先生が2人で教えることについて、あなたはどのように思いますか。 理由も書いてください。	
<b>回答</b> 2人で教えるのがよい （回答数 38 回答率 92.3%）		<b>回答</b> 半分の人数で学習する方がよい （回答数 38 回答率 97.4%）	
自由記述（複数回答有）	回数	自由記述（複数回答有）	回数
・算数が（すごく）楽しくなった	2	・楽しい	2
・分かりやすい	12	・おもしろい	2
・1人が説明や丸つけの途中でも、もう1人に質問できる	11	・分かりやすい	17
・質問しやすい	7	・勉強が少しずつ分かるようになってきた	1
・分からないときに、いろいろな説明が聞ける	1	・質問しやすい	6
・自分に説明してくれる時間が増えてうれしい	1	・発表しやすい	6
・できているかどうか見てもらえる回数が増えた	1	・よくあたる	3
・早くできたときに、別の問題を出してくれる	1	・たくさん見てもらえる	1
・つけが速い	1	・早く進む	1
・みんなのペースについていけない子がいるから	2	・静かに勉強できる	2
		・勉強しやすい	1
		・間違えても気楽	1
		・先生に近い	1
		・39人だと先生が大変	1
<b>回答</b> どちらでもよい （回答数 2 回答率 5.1%）		<b>回答</b> どちらでもよい （回答数 1 回答率 2.6%）	
自由記述（複数回答有）	回数	自由記述（複数回答有）	回数
・1人のときと変わらない	1	・何も思わない	1
・学級担任の先生だけで十分	1		
<b>回答</b> 1人の方がよい （回答数 1 回答率 2.6%）		<b>回答</b> 全員で学習する方がよい （回答数 0 回答率 0.0%）	
自由記述（複数回答有）	回数	自由記述（複数回答有）	回数
・学級担任の先生の方が質問しやすい	1		